

歴史探訪

クラブ! 其の164
History Inquiry Club

文化生涯学習課 ☎ 23局3635
FAX 22局3811

史跡 渡辺華山池ノ原幽居跡

池ノ原公園は、田原中学校と成章高等学校の間、田原福祉専門学校の北側にあります。ここは、渡辺華山が晩年に暮らし、最期を遂げた場所として知られています。平成4年には、一部が田原市の史跡に指定されました。

明治42年（1909）、池ノ原公園の整備が始まりました。華山会設立準備事業のひとつとして用地確保、公園化および東郷平八郎筆「華山先生玉碎之址」の碑の建立が行わ

れました。翌年、華山会の発足とともに「池ノ原公園」と命名。大正3年（1914）には、錦織剛清氏寄贈の華山の銅像が建立されたのですが、昭和18年（1943）、太平洋戦争の資材に供出されました。昭和3年には、華山会により自筆墓表「不忠不孝渡辺登」の碑が建立されました。昭和30年、「渡辺華山関係資料」が国の重要文化財に指定されました。その後、日展彫刻家小田寛一氏に依頼し、銅像を再建。屋敷の復元も行われました。屋敷の横には、華山直系の画家松林桂月氏題字の石碑「華山先生幽囚之家」があります。

そして、平成5〜7年に公園の南側に散策路、四阿、あずまや華山の生涯を刻

したオブジェなどを整備、新しい池ノ原公園としてお披露目されました。これにより当時の屋敷地のほぼ全域が公園化されました。

華山は、江



●東郷平八郎揮毫の石碑と自筆墓表石碑



●松林桂月題字の石碑

戸の友人への手紙で池ノ原の様子を「狐、蛇が出るようなさびしいところ」と記し、住居については「低い身分の狭い屋敷だが、築6、7年で新しくきれいだ。敷地は1500坪ほどあり、元気になれば畑も耕せる」と記しています。この屋敷は華山が藩の農業振興のために招いた豊後日田出身の大蔵永常に与えられたもので、当時は「御産物屋敷」と呼ばれていました。

残っている間取り図によると、取り壊される前の屋敷は、現在のものとは多少異なります。華山が自害

した製糖小屋は現在の銅像付近で、屋敷の正面も南側に向いていました。周囲には武家屋敷の土手や椿の生垣がみられ、往時の様子をとどめています。公園



●渡辺華山銅像

内の池ノ原会館は、

平成19年に開館し、立礼席によるお抹茶（有料）を楽しむこともでき、「全楽庵」と名付けられた茶室や和室を利用することもできます。

池ノ原公園は、華山をしのぶ歴史公園として親しまれています。

（鈴木）

今月の「表紙」

▼来年度から、一つの小学校へ統合する和地・堀切・伊良湖小学校。広大な太平洋に面し、自然豊かな地域で育まれた児童たち。学年を超えて兄弟のように過ごしたであろう皆さんは、取材中でも笑顔いっぱいであいさつしてくれました。それぞれの学校での思い出を胸に、新しい友だちと海や山を駆け回ってくださいね。（M）

【表紙の写真】和地の磯と星空